

教科	工業化	科目名	建築実習	単位数	2
学科	建築科	学年	2 学年	履修区分	必修
使用教科書	建築実習1・2(実教出版)				
副教材など	電卓, 自作プリントなど				

## 1. 科目の目的

- ① 建築に関する基本的な技術を、実際の作業を通して総合的に習得することが出来ることを目指す。□
- ② 技術革新に主体的に対応できる能力と態度を身につけることを目指す。

## 2. 授業の内容と進め方

座学で学習した事項と関連付けを行い、各実習科目と連携をとり建築物の完成工程・流れ・各種工法等を理解させる。また、各種資格試験の取得にもつながる技術・知識も習得させる。

## 3. 学習する上での留意点

安全な作業を行うために、工具・機械の正しい使用方法の知識を理解し実行することが大事ある。又、技術の習得も必要であるが、整理・整頓等の環境整備等の指導も行う。

## 4. 課題等について

各課題ごとに、学習到達目標に達しない生徒は、補習を実施します。

## 5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	意欲的に課題に取り組む実習・実験内容に興味・関心を持っているか。
思考・判断・表現	実習内容のポイントを認識、かつ判断することができ安全性を考慮しているか。
技能	実習内容の目的を理解し参考資料も活用しながら適切な行動ができるか。
知識・理解	専門用語、規格、誤差が理解できているか。又、機器・道具の正しい取扱いをしているか。

## 6. 評価の方法

「出席状況」・「授業態度」・「作品の提出の有無、出来栄え」・「報告書の提出及び内容」などについて、総合的に判断し評価します。

《指導計画》 科目名 建築実習

2 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	3グループによる各パートローテーション実習  <b>(1)材料実験</b> ア 木材の圧縮試験 イ 鉄筋の引張り試験 ウ セメントの強さ試験 エ コンクリートの調合設計 オ コンクリートの圧縮試験	○鉄筋コンクリート造で用いられる, 建築材料の強度等の知識と各試験方法を確認し実際に活用できる。	レポート提出 課題提
	5			
	6			
	7			
二 学 期	9	<b>(2)計画実験とCAD実習</b> ア 日影曲線と隣棟間隔測定 イ 有効温度の測定 ウ 騒音測定 エ 室内作業面の水平面照度測定 オ CAD(コンクリート造平面図)	○建築物を設計する上で必要な, 建築物室内外の環境を実際に調査・実験を行い, 建築物の室内外と生活環境に影響を与えるものを理解する。 ○コンクリート造平面図をCADで入力し, CADの操作方法を習得する。	レポート提出 課題提
	10			
	11			
	12			
三 学 期	1	<b>(3)測量実習と木工実習</b> ア 平板による骨組測量(進測法) イ レベルの据付と視準 ウ 水準測量(昇降式①②) エ 木工(小屋組み)	○建築物を施工する上で必要な測量知識・方法を理解し, 実際に活用できる。 ○木造建築物の小屋組みの構造と加工方法を理解する。	レポート提出 課題提
	2			
	3			